



みなとからの風

〒231-8682 横浜市中区新山下3-12-1 / TEL 045-628-6100(代)

<http://www.yokohama.jrc.or.jp/>

●発行：2015年9月 医療連携センター

Contents

- 眼科が新体制になりました -ロービジョンクリニック開設- …… 1
- 集中治療部 …… 2
- 糖尿病サポートチームと糖尿病診療支援のご紹介 …… 3
- 新任医師のご紹介 …… 4
- 第20回4区医師会・みなと赤十字病院合同研究会開催のお知らせ …… 4

眼科が新体制になりました -ロービジョンクリニック開設-



高阪医師 椎野医師 永野医師

眼科 部長 椎野 めぐみ

手術も積極的に対応していく予定です。その他、加齢黄斑変性症にたいする抗VEGF抗体硝子体注射を2013年より開始しております。昨年より適応疾患が拡大し、網膜静脈閉塞症に伴う黄斑浮腫、糖尿病黄斑浮腫、病的近視による脈絡膜新生血管も保険適応となりました。当院でもOCT（網膜断層撮影）、蛍光眼底撮影等で検査、診断、加療まで行っております。視力低下の訴えがある患者さんがおられましたら是非ご紹介ください。

眼科においてロービジョンケアという分野をご存知でしょうか。現在眼科領域で視機能を改善できない難治疾患がいくつかあります。網膜色素変性症、緑内障末期、進行した糖尿病網膜症、治療に反応しない加齢黄斑変性症などです。

ロービジョンケアは、視覚障害の方に残された視機能を最大限いかして社会生活を営んでいただく、視覚障害者のQOLを上げる、いわば眼科のリハビリといえます。視覚障害者適合判定医師研修会を受講し、この7月から当科でもロービジョンクリニックを開設いたしました。おもな内容としては、患者さんと相談しながら器具（最近ではiPadなどIT機器を含む）の情報提供、社会資源の紹介、診断書の記載などです。視覚という、大切な感覚機能の喪失に直面する患者さんの心理に寄り添いながら少しでも快適な生活を送っていただける診療をめざします。どうぞよろしくお願いたします。



2015年度より横浜市立みなと赤十字病院の眼科の体制がかわりました。

常勤医3名の体制になり、いずれも眼科専門医です。新しい医師は

○永野葵医師（鹿児島大H14年卒、副部長、専門分野 白内障、緑内障、網膜硝子体疾患）

○高阪昌良医師（新潟大H20年卒 専門分野 白内障、緑内障、小児眼科）

の2名です。両名とも手術経験も豊富で、やる気にあふれており、すでに多くの患者さんの手術を執刀し、良好な結果を得ております。この2名に加え

○椎野めぐみ医師（浜松医大H2年卒、部長 専門分野 白内障、緑内障、網膜硝子体、ぶどう膜炎 ロービジョン）

が引き続き診療にあたっております。

常勤医師3名となり、紹介患者さんをお待たせせずに診療できる体制となりました。これまで以上に地域の先生方との連携を大切に、患者さんや紹介元の先生のご要望に添える診療をめざします。

手術は従来の白内障手術を入院、日帰りで対応しております。現在、初診から手術まで短期間で行うことが可能となりました。今後、網膜硝子体

手術は従来の白内障手術を入院、日帰りで対応しております。現在、初診から手術まで短期間で行うことが可能となりました。今後、網膜硝子体

集中治療部



写真1：毎週行う英文誌抄読会の様子。重症患者管理に関わる世界のエビデンスに追従する努力を行っています。

当院集中治療部は、中央診療部門として各診療科と密な連携をとりながら、集中治療室の重症患者管理と効率的運営を行っています。平成27年7月現在、10床のICU（general ICU=6床、CCU=4床）と8床のHCUが隣接し、相互に助け合える構造となっています。ICUの10床は、平成26年度診療報酬改訂であらたに設置された、より質の高い集中治療室の要件を満たす特定集中治療室管理料1を算定しています。この管理料には、施設（1ベッドあたりの広さ）、医師（集中治療に関わる履歴）、患者重症度（90%以上の患者が一定の重症度基準をこえる）、コメディカル（臨床工学技師24時間常駐）といった厳しい要件が設定されており、現時点では全国的にも数少ない施設しか算定できていません。

ICUには年間約1000名の重症患者が入室し、平均在室日数は約4日、ICU死亡率は10%前後です。定時大手術後の患者は全体の約2割にとどまり（現在心臓血管外科術後患者が増加中）、それ以外の大半は救急外来から、一部は一般病棟急変後の入室です。すなわち、当院ICUは緊急入室をベースとしているため、外傷から内因性疾患まで非常に多彩な疾患が入室し、かつ重症度が高いのが特徴と言えます。

集中治療部のミッションには、重症患者のアウトカム改善のみならず病院経営への貢献も含まれま

院長補佐 集中治療部部長 武居 哲 洋

す。とくに、院内患者急変対応や中心静脈カテーテル挿入ライセンス制度等の医療安全に関連する院内業務の企画・運営に、中心的な役割を果たしています。多職種協同による円滑なチーム医療を重要視しており、朝は看護師・専従薬剤師・臨床工学技士・様々な診療科医師が参加する多職種回診から始まり、看護師・リハビリスタッフの参加する患者治療方針・家族情報を共有するカンファレンスと続きます。

当院の救急に関する揺るがぬ基本方針は「断らない救急」であり、これは集中治療部にもあてはまります。すなわち、いかなる重症患者の入室要請があっても、必要があれば必ず入室させ治療を開始します。すでに集中治療室が満床であった場合には、相対的に軽症である患者に移動していただき重症度の高い患者がたらい回しにあわない配慮を行っています。つまり、「ICUが満床なので患者受け入れは出来ません」ということがないようにつねに配慮しており、集中治療専従医チームの24時間態勢のバックアップが、最重症患者に対する「断らない救急」を実践する支えになっています。地域の病院の先生方におかれましては、重症呼吸不全、ショック、多臓器不全などを呈している場合でも常時対応可能ですので、どうぞご遠慮なく当院にご紹介下さい。



写真2：毎月気になる症例を1例選び、重症患者の病態生理に関する徹底的なレビューと討論を行っています。記念すべき第100回症例検討会でくす玉を割ったところ。

糖尿病サポートチームと糖尿病診療支援のご紹介



糖尿病サポートチームメンバー

「糖尿病患者教育は、糖尿病治療そのものである」とアメリカ・ジョスリン糖尿病センターの創設者ジョスリン医師が述べたように、よい血糖管理には、患者教育が重要です。しかし教育すべき内容は、糖尿病の基礎知識に加え、合併症、糖尿病薬、低血糖時の対応、シックデイの対応、食事指導、運動指導など多岐にわたります。そこで当院では2014年度より多職種よりなる糖尿病サポートチームを結成し、糖尿病教育、療養指導にあたっています。チーム構成は医師6名、看護師6名、薬剤師4名、管理栄養士2名、理学療法士1名、臨床検査技師1名、事務2名です（その内糖尿病看護認定看護師1名、糖尿病療養指導士5名）。主な活動内容は糖尿病教育入院時の糖尿病教室、外来糖尿病講習会、糖尿病透析予防外来指導、糖尿病療養に関するコンサルト対応、医療職の教育などです。

糖尿病教育入院は5日間（月曜～金曜日）と12日間（月曜～翌週金曜日）のパスを用いて行っています。12日間入院では医師講義4回、看護師講義2回、薬剤師講義1回、理学療法士による運動実技指導2回、集団栄養指導1回、個別栄養指導2回、教育用DVD視聴、個別にインスリン注射指導、自己血糖測定指導などを行います。昨年度の入院数は200余名で、その多くが地域の開業医の先生方からご紹介頂いた患者さんです。対象は、血糖コントロール不良の方から、インスリン導入目的、単に教育目的など、糖尿病患者さんであれば、どのような方も受け入れています。ご紹介頂いた患者さんは

内分泌内科部長 太田 一 樹

原則紹介元にお戻り頂いております。退院後インスリン治療が必要なが紹介元でインスリン注射の対応が難しい場合でも、普段は紹介元の先生に通院して処方して頂き、3～4か月に一度当科外来で診察する、というようなことも御提案させて頂いています。

また昨年度より、開業医の先生方からの栄養指導依頼の受け入れも開始しました。所定の用紙1枚を郵送またはFAXして頂ければ、患者さんと連絡をとって予約をとり栄養指導を行っています。栄養指導を契機に血糖コントロールが改善する患者さんは少なくありません。月1回外来患者さん向けの糖尿病講習会も開催しており、毎回30～40の方が参加されています。対象は当院通院中の方のみならず、広く一般に公開しています。内容は医師講義1時間、コメディカル講義30分×2の計2時間で、1年間を通して毎回テーマを変えています。開業医の先生に通院中の患者さんで、糖尿病教育が必要な方はお気軽に参加させてください。講習は無料で、予約なしで参加可能です。（スケジュール等の案内は当院ホームページ参照）

当院では、地域の先生方の糖尿病診療のご支援ができればと考えております。糖尿病教育入院や、栄養指導、糖尿病講習会などをご利用頂ければ幸いです。今後ともよろしくお願い申し上げます。



外来糖尿病講習会の様子

新任医師のご紹介

新しく就任した医師をご紹介させていただきます。今後地域の先生方と地域医療の連携を推進していきたいと存じますのでどうぞよろしくお願いいたします。

*** 質問項目 ***

①診療科 ②取得指導医、専門医 等 ③卒業大学 ④卒業年 ⑤趣味 ⑥地域の先生方へ一言！

ナカノ ミツノリ
中野 光規

- ①心臓血管外科
(成人心臓血管外科)
- ③和歌山県立医科大学
- ④平成22年
- ⑤旅行
- ⑥「地域に貢献できるように頑張ります。」



ヤマウチ ヤステル
山内 康照

- ①循環器内科(不整脈)
- ②不整脈専門医、内科認定医、循環器専門医
- ③愛媛大学
- ④平成2年
- ⑤テニス
- ⑥「患者様に当院へ紹介していただけて良かったと言ってもらえるよう頑張ります。」



ハシモト タカシ
端本 宇志

- ①皮膚科
- ②皮膚科専門医
- ③東京医科歯科大学
- ④平成16年
- ⑤現代の音楽
- ⑥「地域の先生方のお役に立てるよう紹介頂いた患者さんをきちんとお戻しできるよう、努力いたします。」



フクイ サチ
福井 沙知

- ①泌尿器科
- ③旭川医科大学
- ④平成24年
- ⑤テニス、温泉
- ⑥「未熟者ですが精一杯頑張ります。よろしくお願いいたします!!」



第20回4区医師会・みなと赤十字病院合同研究会

4区(西・中・磯子・南区)みなと赤十字病院合同研究会を10月7日(水)19:20から横浜ベイシェラトンホテル&タワーズ5階で開催します。

今年度は西区医師会にご担当いただき、医師会より2演題ご提示いただく予定です。

また研究会後は、ささやかながら情報交換会を予定しております。

多くの先生方のご参加をお待ち申し上げます。



紹介患者さんのお問い合わせご予約は医療連携課

電話 045-628-6365 (直通) / FAX 045-628-6367 (直通FAX)



日本赤十字社

横浜市立みなと赤十字病院

〒231-8682 神奈川県横浜市中区新山下3丁目12番1号
TEL 045-628-6100(代表) FAX 045-628-6101